

事前アンケート取りまとめ

① 認知症初期対応マニュアルを活用した事例検討会テーマ

グループに分かれ、事例①～⑥まで各グループに割り当て、「自分たちなら（自施設なら）こういった事ができる。こういう解決案がある。」など各グループで考える。

受講者に出す情報は、要因・本人の情報・家族の状況及び住環境・主治医の所見・本人や家族などの強みにとどめておいて、各ケースの課題・課題解決に向けた具体的な提案・支援のポイントをグループで話し合う。模造紙に考えを記入し発表する。

この研修会を通して、どの職種の人がどのような取り組みをすれば解決出来るかを探っていく、多職種の交流をしながら連携方法を知る。また、課題について、共感しあう。

多職種でそれぞれの持ち味、領域を互いに知らないことも多いので、自分の領域の支援できるポイントやここを頼って欲しいというものを事例から話し合うものがよいと思います。事例をもとにした自分の職種のPR合戦です。逆にここはできないというものでれば職種間の理解は深まると思います。

多職種が関わるポイントの意見交換。その際の情報の流れ（伝達ルートやどういった情報を提供してほしいなども含め）も話し合えれば今後の対応に役立つと思います。

歯科医院に認知症の方が来院されたときに、よりスムーズに診療できるように事例集から学んでいきたいと思います。歯科については事例の言及は少ないですが、事例集は対応の機微が示されていると思います。

(1) 第1回会議で出た意見を採用させて頂き、事例1～2をモデルに、各職種で提供し得る、他の（事例1～2で紹介されている以外の）サービスがあれば提案する。その際、他職種に協力して欲しいと思うことや、あれば良かったと思われる社会資源を挙げて協議する。

(2) 「認知症初期対応事例集」は非常に良くできた成功例集であると思います。

逆に、各職種メンバーの経験談から、特に失敗例を挙げて、失敗に至った原因や問題点、その時の正しいと考えられる対応方法を互いに協議してまとめる作業をしてみてもいいと思います（あくまでも、対応マニュアルにある、してはいけない行動ではなく）。良い点も悪い点も情報を共有することで、より良い対応をすることができるのではないかと思います。

この事例集は、周りの人が本人の困っている事、今後のリスクになるであろうことを課題にして、スムーズに支援が出来た成功例。

研修会では「本人の意向」を中心にすべく、仮説をたてて、ケース検討（事例1では「いつも不安で寂しい、いろんな事が出来なくなってきた。身内に傍にいてほしい」等）。

課題から具体的な提案を再検討して、事例集との違いをしてみる。

事例を提示していただいた方に、症例の説明をしていただき、質問を受け、事例集以外の対応があれば意見をいただく。

令和元年度 認知症に関する多職種連携研修会 実施要項（案）

- 1 日 時 令和元年11月16日(土)
14:00～16:00（13:30受付開始）
- 2 場 所 生駒市コミュニティセンター 402～404会議室
- 3 目 的 団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）に向け、認知症高齢者の増加が予想される中、認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするためには、医療分野や介護分野の更なる連携強化が重要な課題となっている。

このような状況の中、それぞれの専門機関がつながり、支援を強化することの必要性についての理解を深めることを目的として、多職種連携研修会を開催する。

なお、今年度は認知症初期対応事例集を題材とした事例検討会を行うことで、初期対応の重要性について、改めて認識する。
- 4 対 象 市内の医療・介護に携わる多職種の方々 100名（申込先着順）
- 5 内 容
 - (1) 開会（14:00～14:05）
 - (2) 講演（14:05～14:35）
「なぜ初期対応が重要か」（仮）
やまと精神医療センター 前田 智 氏
精神保健福祉士。生駒市の認知症初期集中支援チームの一員としてご協力いただいている。
 - (3) 事例検討（14:40～15:30）
認知症対策部会で作成した認知症初期対応事例集掲載事例を題材として、事例集での対応以外に、それぞれの職種が、自分たちならこういったことができるということを話し合うことで、それぞれの職種の領域や強みを改めて認識し、多職種連携の必要性について理解を深める。
- 6 主 催 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 認知症対策部会

【各委員さんからいただいたご意見の要約（事例検討会テーマ）】

- ・自分たちならこういったことができるということを話し合う（各職種で提供できる他のサービスの提案）。
- ・事例集以外の対応について意見交換。
- ・事例をもとにした職種のPR合戦。
- ・課題解決に向けた具体的な提案・支援のポイントを話し合う。
- ・連携の際に、どういった情報が欲しいか。
- ・「本人の意向」を中心にすべく、課題から具体的な提案を再検討して、事例集との違いを見る。
- ・あれば良かったと思われる社会資源を挙げる。
- ・各職種メンバーの失敗例を挙げ、失敗に至った原因や問題点、正しいと考えられる対応方法を協議する。
- ・事例集から対応の機微を学ぶ。

【部会で検討をお願いしたい事項】

- ・検討する内容（テーマ）
- ・検討する事例の数（全グループ同じ？ グループごとに分ける？）
- ・検討する事例の選定